

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



第11回西脇市立幼稚園作品展を開催。市内8幼稚園に通う248人が日常生活で経験したことなどを表現した作品を展示（1月7日～10日、道の駅北はりまエコミュージアム）



新春恒例の書き初め大会に市内の子どもたち52人が参加。子どもたちは集中して筆を走らせていました。まちづくり団体「西脇TMO」主催（1月7日、旧来住家住宅）



立春式に市内中学3年生が参加。岡原光祐さんが「支えてもらった家族や周囲の方に感謝し、地域に恩返しできるように成長した姿を見せたい」と決意を述べました（1月15日、市民会館）



西脇ライオンズクラブの青少年短期交換留学制度を利用して、マレーシアからヴィニー・ヤン・キム・トンさんが片山市長を表敬訪問（12月26日、西脇市役所）

北はりま旬菜館の来店者が50万人に

〔12月24日 北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」〕



50万人目の来店者となった小西さんには北はりま旬菜館から記念の農産物を贈呈

北はりま旬菜館は農家の育成や地産地消の推進を目的として平成23年7月に設立。来店者は年を追うごとに増え、オープンから約5年半で50万人となりました。50万人目の来店者となった小西順子さんは「野菜はほとんど旬菜館で購入している。新鮮で安心して食べられるからうれしい」と話しました。

都大路での激闘を報告—西脇工業高校陸上競技部

〔12月26日 西脇市役所特別会議室〕



左から足立幸永男子監督、寺前友喜選手、南美沙希選手、前田泰秀女子監督

西脇工業高校陸上競技部の選手たちが全国高校駅伝競走大会で25年ぶりのアベック入賞を果たし、報告のため市役所を訪れました。男子の寺前友喜選手と女子の南美沙希選手は「来年はより高みを目指して頑張っていきたい」と後輩たちに思いを託していました。

大きく実ったイチゴに大喜び—芳田小1年生

〔1月12日 明楽寺町・篠田いちご園〕



採れたてのイチゴを手に大喜びの子どもたち

芳田小1年生18人が明楽寺町の篠田いちご園でイチゴ狩りを体験しました。同園ではオープンした平成15年から毎年、子どもたちを招待しています。子どもたちは大きく実った甘酸っぱいイチゴを次々とほお張りながら、「甘くておいしい」「60個も食べた」などと喜びました。



プロ野球選手の投球を目の当たりにして、子どもたちからは大きな歓声があがりました

桑田真澄さんから元プロ野球選手15人による「ロータリー少年野球教室」が行われ、少年野球チームなどに所属する約150人の子どもたちが参加しました。「夢を持つ野球少年に本物の野球を体感してもらおう」と西脇ロータリークラブが企画。読売ジャイアンツや米大リーグでも活躍された桑田真澄さんや、西脇市出身で阪神タイガース・ブルペン捕手の本田明浩さんらプロ野球42年会「絆の会」のメンバーが指導に当たりました。投球指導では、桑田さんが「ボールの縫い目を利用して回転をかけ、下半身の力をうまく伝えて」と指導。「野球は、礼儀や努力、互いに支え合うことなどを学べる素晴らしいスポーツ。野球を通じて学んだことを社会で生かし、活躍してもらえれば」と子どもたちに期待を寄せました。

桑田真澄さんら元プロ野球選手による野球教室

〔1月15日 総合市民センター体育館〕

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 facebook で情報発信中！



第2部交流会で久しぶりの再会を喜ぶ新成人たち

成人式は、市内4中学校出身の新成人8人による「成人式運営委員会」の皆さんが内容を企画し、自ら運営をしました。第1部の記念式典では、運営委員長の高田光司さんが「周囲のこ

平成29年成人式—461人が大人の仲間入り

〔1月8日 アピカホール・西脇ロイヤルホテル〕

これまでの支えに感謝し、これからは責任感を持って悔いのないよう生きていこう」と呼びかけると、新成人を代表して高田裕介さんと南波真帆さんが「すべての出会いを大切に目標に向かって日々邁進したい」と決意を述べました。第2部の交流会では、懐かしい友人たちとの再会を喜ぶ姿が多くみられ、三木滉樹さんによるギター演奏のほか、中学時代の恩師が登場するビデオレターなどで会場は大いに盛り上がっていました。成人式には、フィリピン人のピターさんとベトナム人のランさんも出席。「母国には成人式がないので、晴れやかな場所に参加できて嬉しい」と話していました。また、新成人らは成人式に先立って、社会貢献の一環として、老人保健施設へ手作りの門松を寄贈したり、子どもたちのために本の寄贈を呼びかけたりしました。